

令和7年度 湯河原町総合教育会議 会議録

日 時 令和8年3月23日（月）午前10時00分～午前11時21分

場 所 湯河原町役場第2庁舎3階会議室

出席者 （委 員）内藤町長、石井教育長、西山委員、深澤委員、鈴木委員、伴委員
（教育委員会）教育グループ参事兼学校教育課長、学校教育課副課長兼指導主事、学校教育課係長、社会教育課長、社会教育課副課長、図書館長、美術館長
（事 務 局） 政策グループ参事兼地域政策課長、地域政策課係長、地域政策課主事

傍聴者 8名

1 開 会

2 町長あいさつ

皆さん、おはようございます。改めまして、本当にお忙しい中、委員の皆様にご出席いただきましてありがとうございます。教育大綱等の結果が出た後の会議になりますので、どうしてもこの時期になってしまうところがございます。今後は、教育委員会の中でも懸案が一つ一つあると思いますので、委員の皆様が定例会で集まる場面などに反映できればと考えております。

ちょうど先々週、中学校の卒業式に参加させていただきました。卒業生の皆さんからは、家族への感謝や、学校での思い出として修学旅行、部活動の話などがあり、私自身も大変感動して帰ってきたところです。その中で、給食のことが出なかったというのは、中学生は付度しないのだなということを感じたところでございます。

やはり、そうした学校生活の下支えとなるのが、町の教育大綱であり、教育委員会で進めている教育基本方針であると感じております。本日の案件につきましても、教育大綱に係る基本目標の検証、また、令和8年度の教育基本方針でございますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思います。本日はよろしく願いいたします。

3 教育長あいさつ

本日は、湯河原町総合教育会議の開催にあたり、ご多用の中ご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃より本町の教育行政に温かいご理解とご協力を賜り、心から感謝しております。

現在、本町では、学校の統廃合の検討や、中学校の部活動の地域展開など、将来を見据えた重要な課題に取り組んでおります。いずれも、子どもたちにとってより良い教育環境をつくるためには欠かすことのできないものであり、一つ一つ丁寧に議論していかなければならないと考えております。

本日は率直なご意見をいただきながら、湯河原の子どもたちが自分の可能性を信じて成長できる環境づくりに向け、議論を深めたいと思っております。限られた時間ではございますが、この会議が実りあるものとなりますようお願い申し上げ、開会の挨拶といたします。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

4 案 件

（１）教育大綱に係る基本目標の検証について…資料 No. 1

○資料 No. 1 を説明（地域政策課）

○質疑・意見

（伴委員）

評価委員の意見があるところについて、たとえばオレンジマラソンなどは、いろいろと実施方法を工夫されてきたことを聞いております。その結果、多くの方が参加することにつながっていると思いますので、そうした良い取り組みや発信の仕方についても、他の大会や事業に活用できるものがあれば活用していくとよいのではないかと感じました。

（町長）

ありがとうございます。オレンジマラソンにつきましては、今年度は定員 2,500 人規模で実施いたしますが、もともとは 3,000 人規模の大会でしたので、来年度は以前に戻して 3,000 人という形で実施する予定でございます。他の事業についても、先生からお話がありました。社会教育の方ではいかがでしょうか。

（社会教育課長）

オレンジマラソンと、各種大会開催事業とは、少し趣向が違う部分がございます。各種大会は、町内のチームや地域的な活動に関わる部分があり、たとえばママさんバレーについても、ママさんに特化するだけでなく、町民バレーという形にするなど、今後はあり方を考えていく必要があると感じております。

また、スポーツ・レクリエーションフェスティバルについても、高齢者や子どもたちにお声がけをして実施しているところです。社会教育としても、今後の展開を考えながら、各種大会事業を開催していきたいと考えております。

（町長）

人口も減少しており、子どもの数も減っておりますので、前年を下回ったから B 評価という単純なものではないと私も感じております。ただ、それに応じて、大会のあり方やイ

ベントのあり方は変えていかなければならないのではないかと考えております。学校教育課としてはいかがでしょうか。

(参事兼学校教育課長)

児童生徒数が減少していることもあり、子どもたちを集めるイベントは難しくなっていると感じております。子どもフォーラムにつきましても、参加者がなかなか増加していかないことから、今年度はわかもの会議などと一緒に実施することも試みとして行っております。今後も、委員の皆様のご意見を伺いながら、子どもたちの参加が増えるよう目指していきたいと考えております。

(西山委員)

先ほど町長がおっしゃった、様々な行事やイベントについて、参加者数が前年と比べてプラスかマイナスかでだけA・Bを判断するのは違うのではないかという考えには、私もそのとおりだと思います。

様々なイベントや行事を行うために、担当の方々が非常に苦労されていることは十分承知しています。ただ、それがいわゆる人集めのような形で終始してしまうとどうなのかということです。大会やイベントに参加した人、子どもたちが、そこでどの程度満足したのか、自分の違う部分を引き出すことができたのか、そういったところで評価してあげる必要があるのではないのでしょうか。ややもすると数字だけを捉えて評価されてしまう部分があり、担当としてもきつい部分があるのではないかと思います。

実は、何年か前に湯河原町で、令和6年5月にこども計画策定のためのアンケート調査を行った際、「湯河原町の将来を明るいと思う」若者の割合が29%という形で出ていました。湯河原町の将来が明るいということには、いろいろな捉え方があると思います。人口減のように毎月の広報でマイナスが続いている部分だけを見てしまうと、暗く感じるころもありますが、子どもたちにとって、受け入れてくれる場所、学びや遊びの場、そういった施設的なものがあるかどうかも大切です。

大人にとっては仕事の間や交通のことなども含まれますが、様々な要因があって湯河原町に対する思いが出てきているのではないかと思います。インフラ的な部分も含め、子どもたちの活動を支えるサポートも含め、これから教育施策について事務局も含めて一緒に考えていかなければならないと思います。それが教育大綱に係る基本目標の策定にもつながっていくのではないかと考えております。

(町長)

ありがとうございます。今おっしゃった、いわゆるアウトプットとアウトカムについては、少し後ほどお話ししたいと思います。将来が明るいかどうかという30%弱という数字は、高いか低いかでいえば、子どもの割合としては低いのではないかと感じます。行政としても、この教育大綱の理念が本当にそれに届いているのかというところまで見なければならぬ場面が出てくるのだと思います。

(深澤委員)

資料で見ると、どうやったのか、それが何点であったのかということが中心になっていますが、教育もこれからは、点数ではなく、覚えたことのアウトプットや、やったことが

どう評価されたかだけでなく、やったことにどんな充実感があつたのかが大事になっていくと思います。

子どもたちもそうですし、町役場の方々も含めて、一人ひとりがどのように関わったのかを、もう少しお互いに感じ合えるようなものになり、プロセスを大事にするものになればたらいいなと思います。湯河原町には、それぞれが自分の思いを立ててきている方が多いと感じています。その中で、なかなか立ち切れない、上がりきれない部分に対して、この町が少しサポートをしてくれているところがあると思います。

民間でも、それぞれの個人でも、上がってきている人たちに対しては、一緒に上がっていくのだという感覚があり、そこに少しサポートが必要だということを、町が担ってくれているのではないのでしょうか。やったか、やらないかの評価だけでなく、実際の細かなところをやってくれていること自体を、町の仕事として、また町の人間として感謝していきたいと思います。それが同時に教育、子どもたちの育て方、育み方にも直結していくと感じています。

評価で数字が良かったかどうかだけでなく、やったプロセスをみんなで大事にしていくことが、温泉のある「育む」場所としての湯河原の温かさであり、そのエネルギー感が、外からここに住みたいなというふうに人を呼んでくるのではないかと思います。私は宿をやっておりますので、外から来る方が「本当にいいね」と言ってくれることが多いということも、外からの声としてお伝えしたいと思います。

(町長)

ありがとうございます。西山委員からも評価のあり方についてご意見がありましたが、相通じるところがあると感じました。

(西山委員)

先ほど私の考えを申し上げましたが、決して湯河原町の教育が間違っているということではありません。私も湯河原中学校の卒業式に出席させていただき、本当に涙が出るくらい感動的な式だったと思っています。卒業生や、それを見送る在校生の様子を見て、本当に素晴らしい中学生に育っていると感じました。もちろん、指導に携わってくださった先生方、サポートしてくださった保護者の方々、温かく見守ってくださった地域の方々の支えもあると思いますが、子どもたち自身の素晴らしさを感じました。

今後についても、教育大綱に関わって様々な施策が掲げられています。一つ一つには課題も成果もあると思いますが、一番大事なのは、子どもたちにとってどういう施策があり、それが子どもたちの将来にどのように結びついていくのかということだと思います。そういう観点からも、今の方向性は決して間違っているものではなく、立派なものだと認識しております。

(町長)

教育委員会にとって大変ありがたいお言葉だと思います。やはり子どもの将来をどういう形にしていくのかは、非常に大事な案件であると考えております。

(深澤委員)

今、西山委員のお話を聞きながら、短期的な評価と長期的な評価ということを考えていました。子どもたちがこの湯河原で育って、その後大人になったときに幸せに生きる力を付けられるかどうかというところは、本当に長期的な目標だと思います。今回の資料に出ている、何回やったかということは、一つ一つの取り組みがどうだったかという、手前の評価になっていると思います。そこが、長期的な目標と結びついていることが大事なのだと思います。

現場で一生懸命やっていることや、目の前で見た「何回」「何名」といったところでしか評価できなかったものが、だんだんいろいろな事例や調査を通じて、これから測れるようになっていく時期に来ているのではないのでしょうか。今は過渡期だと思います。そこを結ぶ指標を、今後丁寧にを見せていくことが大切だと思います。

学校教育の中でも、子どもたちに対してすぐに対応して、どうやって進めていくのか、やってみたらこういうプロセスの途中ですという話を聞くたびに、評価の目に見えない場の力を、皆さんがきちんと内側から引き出してくれていると感じます。それは、卒業式や運動会などのイベントのときに出てくるものであり、良かった、できたかできなかったかだけではないと思います。

今年は、ある小学校で、運動会を子どもたち自身でつくるという取り組みがあったと思います。そうやって子どもたちの可能性がどのように伸びていくのか、一つ一つ丁寧に、大人としてもチャレンジをして、子どもとどのように融合していくのか、その結果が良いとか悪いではなく、やってみたことで次の変化が起こり、来年度はそれを踏まえて他の学校でどうしていくのか。そうしたプロセスを楽しみにしていけるような、応援の場になっていきたいと思います。

(町長)

子どもたちの将来について学びを深めるような教育、子どもの可能性をどのように高めていけるのかということは、非常に大切なことだと思います。

(深澤委員)

子どもたちもそうですし、大人もそうです。組織の場でも今大きく変わりつつあると思います。やってみたことに対して、良いとか悪いとかの評価というよりも、やってみたからこその次の段階に目を向けていくことに、みんなが力を注ぐことが大事になってくると思います。

今回の運動会の例でも、大人が決めていたらすぐに進むことが、子どもたちが決めるから進んでいないように見える。でも、じわじわと物事が上がってきて、みんなでやったからこそのものになる。これは大人の組織も一緒だと思います。それを見守ること、その人がどんな感覚で動いているのか、そこに何が集まっているのかというプロセスを見ていくことが、町役場の組織でも、学校教育でも大事であり、湯河原らしさにつながるのではないかと思います。湯河原から、教育から、そういうことができたらいいなと思います。

(町長)

いろいろな事業の中で、絶対的な数値で表せる事業もあるでしょうし、逆にそれだけでは捉えられない事業もあります。特に教育の現場では、そういうものも大切にしていかなければならないと思います。教育長からはいかがでしょうか。

(教育長)

教育が変わってきているというのは、今に限らず、昔から少しずつ変わってきているもので、突然変わったわけではありません。ただ、教員の立ち位置も少し変わってきています。私も教員だったので、教えるのが好きで教員になりましたが、今はだんだん「教える」というよりも、「伴走する」教員が求められる学校教育になってきています。

子どもたちがやりたいことを見つけてやるのを、横で一緒に走ってくれる先生、アドバイスしてくれる先生が求められています。子どものニーズに合わせて一緒に伴走できるだけの力がないといけません。それは、自分が持っているものを教えるよりもずっと難しいことです。これだけ多様性のある社会になり、子どもたちがいろいろなものに興味を持っている中で、その一人ひとりに対応していく先生方大変さがあります。

先ほど深澤委員が言ってくださった、運動会で子どもたちに学年種目を考えさせた学校の例が、よい例だと思います。先生方はとても心配して、踊りを子どもたちに考えさせました。そうすると、教員が考える踊りとは見栄えが全然違うので、先生方は心配で、保護者に「子どもが作ったものなのでご理解ください」という趣旨の通知まで出しています。そこまで伴走するというのは大変なことだと私も思いました。

しかし、実際にやってみると、子どもたちは明るく、自分たちが作った踊りを一生懸命踊り、見ていた保護者も大きな拍手をしていました。その学校の運動会は、とても活気があるように見えました。今年度はその事例を、他の小学校、中学校でもやってほしいと思っています。管理職や職員に、こういう事例があったので、ぜひ運動会で子どもたちに考えさせてくださいと伝え、実行してもらいたいと思っています。

事業が一つ一つ評価されていくことも大事ですが、その過程を大事にすることが重要です。それを非認知能力とも呼んでいますが、自分で考えられる、自分には可能性があると思じられる子どもを育てていきたいと思っています。

(町長)

ありがとうございます。教育長だからこそ出る言葉だと思います。全体的にこの基本目標のまとめ方について、事務局として反省してはいけないのかもしれませんが、どうしても予算立てした項目しかないのは残念だと感じています。今お話があったように、予算には表れなくても、運動会のやり方を一つ変えることも、教育の現場としては子どもたちのために大事なことです。今後、まとめる中では、予算に関係ない項目も盛り込むべきだと感じています。

私の意見ですが、行政経験がある中で、この表を毎年拝見していて、一番気になるのは、率直に言って「なぜAとBしかないのか」ということです。AとBしかないから予算は上げません、というように見えてしまうこともあります。予算立ての場面でも、B評価

で納得しているならなぜ増額要求するのか、というように使われてしまうこともあります。

逆に言えば、計画どおり実施できたらAということですが、なかなか計画どおりにいかないことも多く、それではCなのかというと、そういうことでもありません。このあたりは全体的に見直す必要があるのではないかと考えました。

大事なのは、資料に載っている数値的なものは、いわゆるK P I、初歩的なアウトプットであるということです。本当にこれによってどういうことが生まれるのかというアウトカムが、資料の中では見えにくい。一方で、評価委員の意見の中には、かなりアウトカムに近いことも出ています。今後は、将来をどう育てていくのかということを、評価項目として加えていかなければならないのではないかと思います。

(深澤委員)

アウトカムを評価に使うというのは、とても大事なことだと思いながら聞いていました。たとえば人権教育や生徒指導のようなところは、プライバシーの問題もあり表には出にくいのですが、先生方がとても丁寧に声をかけていることや、子どもたちに丁寧に伝えていることがあります。子どもたちが、自分がやってはいけないことを分かる、傍観者にならない、そういったアウトカムを目指して取り組んでいるということが、もう少し分かるような評価の形があるのではないかと思います。

ただ回数があるということではなく、こういうことを目指して、こういうことをやっているということが、本当のところに入ってくるとよいと思います。

(町長)

全部の事業にそうした評価を設けるべきということではないと思います。人権教育などは、現地で見えにくい部分もあり、どこまでやればよいのかという目標設定自体が難しい事業もあります。だからこそ、検証の仕方を考えていく必要があると思います。

(深澤委員)

今、数字だけではないよねということが、教育の場でも、組織の場でもじわじわと出てきていることが大事だと思っています。どのように一人ひとりが生きるような声かけや文章にしていくのか、ちょうど練っていく時期だと思います。教育でも数値をなくしたり、校則をなくしたり、違う形でやってみたときにどんなものが湧き出てくるのかを検証しながら、一緒に動いていける作り方そのものが大事だと思います。今、正解の方法を決めるというより、やってみたときに出てくるものを大事にしてみる。それをみんなで承知してやっていくことが大切だと思います。

(西山委員)

引き続きお願いしたいこととして、湯河原の教育を学校という建物や施設の中にとどめず、地域の様々な教育力を活用する方向を取っていただきたいと思います。実際に、鮎の放流やお茶摘みなど、小学生を対象に行われている体験もあります。実施するには地域の方のご協力も必要ですし、交通手段など町部局で考えていただく必要もありますが、ぜひこれを続け、さらに拡充するような形で進めていただきたいと思います。

子どもたちは、もしかしたらもっと町のことを知りたいのかもしれませんが。自分たちが知らない様々な施設や地域の方々と一緒に活動することを通して、新たな湯河原町を知ることになる。そのことが将来の活性化にもつながっていくのではないかと感じています。ぜひ、地域の教育力をもっともっと活用できるような活動をしていただきたいと思います。

(町長)

ありがとうございます。私事になりますが、私の方でも、多世代交流や、子どもたちが地域のコミュニティとうまく関われる形がないかと考えております。大きなお祭りだけでなく、伝統文化という形でいくつかイベントを行っていますが、それだけではなく、本当に些細なことでもよいので、交流する場面を生み出していただけたらと考えております。

(教育長)

地域の方々からは、伝統文化を学校で教える機会はないのかというお話を時折いただきます。先日、姉妹都市である三原市の子どもたちと一緒にやっさ祭りを行った際、向こうの子どもたちの中には、学校でやっさを教わったと話してくれた子たちがいて、とても上手に踊っていました。

三原市の教育長に、どういう場面で教えているのかを伺ったところ、すべての学校で行っているわけではなく、三原市が合併した際に、三原と関わりのない町ほど、三原市と一緒に頑張るということ子どもたちと一緒に育てていきたいということで、何校かが手を挙げて取り組んだという事例でした。

本町でも、何か機会を得て、みんなで一つのことを頑張ってみようというときに、西山委員がおっしゃったような地域力をいただきながら、伝統文化を取り入れる機会ができればよいと思っています。

(町長)

全体として少し安心したのは、ICTやタブレットをたくさん使うという方向が中心にならなかったことです。もちろんそれも手段の一つですが、それがメインになってはいけないと思います。やはり人と人とのつながりが、教育にとって一番大事ではないかと感じています。

この後、報告事項で令和8年度の教育基本方針もありますが、実施する事業については、教育委員会の方でお忙しい中ではございますが、予算立てがないものも含め、子どもたちにとってどのような将来を見せられる形の施策ができるのか、いくつか組み込んでいただきたいと思います。

5 報 告

(1) 令和8年度湯河原町教育委員会基本方針について…資料 No. 2

○資料 No. 2 を説明（学校教育課）

○質疑・意見

(町長)

報告事項ですので大きな議論をするものではないかもしれませんが、たとえば芸術・文化の振興と文化遺産の活用については、潤いと安らぎのまちづくりを進める上で大切であるという目的があり、そのもとで施策を展開していくと思います。一方で、図書館のあり方などについては、これらを実施しますという表現にとどまり、目指すところが見えにくい部分があります。先ほどのK P Iやアウトカムの話にもつながりますが、実施すること自体を目標にしてはいけないと思います。もう少し上位のレベル、何をを目指すのかを踏まえて実施方法を考えていただきたいと思います。

町としては、教育大綱で4つの基本目標を定めていますが、仮にその形が今に合わないようになった場合には、計画期間中であっても見直してよいと考えております。教育委員会側の施策についても、その点に留意しながら進めていただきたいと思います。

(西山委員)

基本方針につきましては、委員の中で考えを交わし合いながら作成してきた経緯があります。担当からの説明にもありましたが、委員の意見も含めた形で見直していただき、今示されているものになっていると思います。私自身は、非常に満足しております。

学校教育において一番大切なことは、これは私の考えですが、児童生徒一人ひとりが、一定の集団生活の中で多様な考え方に触れ、お互いにそれぞれの考え方を認め合い、協力し合うことだと考えています。学校教育においては、一人ひとりの資質や能力を切磋琢磨しながら伸ばし、さらには社会性を身に付けていくことが重要です。

その考え方で、今回こうした形で湯河原町教育方針を示すことになります。中でも大事なものは「生きる力」を育むことであり、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むことが、その願いとして各重点項目の中に示されているのではないかと思います。

(町長)

ありがとうございます。目標を定めるということは、本当に広く、様々な視点から捉えなければならないものだと思います。先ほどの意見も踏まえ、実施計画の中でうまく取り組んでいただければと思います。

(2) 湯河原町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画(案)について…資料 No. 3

○資料 No. 3を説明(学校教育課)

○質疑・意見

(町長)

当初、この次第を拝見したときには、これは総合教育会議の案件として一つずつ議論するものかと考えましたが、国からの資料の中で、総合教育会議に報告しなければならないということで出させていただいたものです。今回、報告という形になっていますが、この計画はこの後どのような流れになりますか。

(参事兼学校教育課長)

こちらの計画につきましては、最終的に教育委員会の定例会でご検討いただくこととなっております。本日、定例会がございますので、そこでお諮りしたいと考えております。

(町長)

ありがとうございます。こちらについては、この後の定例会でも扱われるところかと思えます。教職員の勤務に関わることで、事務局としては全体的にうまく進めていただきたいと思います。子どもたちに関わることで、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、部活動の地域移行、水泳教室の民間活用など、変わっていくことも多いと思いますので、定例会の方でご承認いただければと思います。

6 その他

(伴委員)

先ほどの意見にも関連することかと思いますが、先生方がブラッシュアップする機会があった方がよいと感じています。教育委員として、風越学園や他自治体の事例を見せていただく中で、異年齢の子どもたちが育っていく、教え合いながら育っていくことなど、そうしたことが教育現場でもできるのではないかと考えています。個人的にも様々な学びの取り組みを見に行く中で、実際に見ることによって、今できていることと、将来的にできそうなことが見えてくると感じています。

「百聞は一見にしかず」ということを強く感じますが、先生方がそういう機会をつくるためには、業務が忙しすぎると難しいと思います。先生方でなくてもよい業務を見直し、先生方の時間に余白をつくりながら、先生方同士のコミュニケーションや、よりよい教育環境のために対応できるような時間が必要だと思います。

(町長)

ありがとうございます。今のお話については、視察などをしたからといって、全面的に取り入れようということではなく、かといって全く取り入れないということでもないと思います。検討するための引き出しを増やすために、そうした機会があるということだと思います。町としても、今後、子どもたちのためにどのような形がよいのか、特に自由な形で生きる子どもになっていくのかという観点から、協力してまいりたいと思います。

また、教育長の挨拶にもありましたように、学校のあり方や部活動の地域展開などについては、これまでは年度末に1回という形になりがちでしたが、そのスケジュール感では厳しいところがあります。来年度については、特に学校のあり方について、複数回、情報共有を行っていきたいと考えております。4月1日に機構改革もございますので、事業として一部所管が変わるものも含め、今後も委員の皆様へ情報共有しながら進めていきたいと思えます。

7 閉 会